

# 03.活動成果

## 1、保護者アンケートより

### ◎体験教室に参加して、成長したと感じた点 (自由記述)

- ◆自然の中で遊ぶ大切さや楽しさ素晴らしさが実感できた。
- ◆自然の中での遊び方を学んだ。今までと違った遊び方を家庭の中にも取り入れて遊ぶことができた。
- ◆私が経験させる事ができないことができた。森の中で遊んだり、夜にろうそくに明かりをつけたり。特に朝の散歩で雪の結晶が見られたことは大変うれしかったようです。
- ◆別々に寝る事がなく、キャンプは心配でしたが、逆に「お母さん一人で寝てさびしかったでしょ？ごめんね」と言われました。自分も寂しかっただろうに、私を思いやる言葉を言えるなんて成長したな一と思いました。
- ◆参加した場所で生活したいと言っていたので、最近はゲームばかりしていたので心配していたが、外で遊ぶ事の楽しさを改めて体験できて良かった。
- ◆初めて会った子とすぐ仲良く遊べる事が分かりました。(分かった事に意義がありました。)  
「トトロは子どもだけが会える」と信じています。こんなに素直に信じる子だということが分かって良かったです。
- ◆焼き芋をやったり、雪灯籠やつらら等を直に作って触ったり、した事のない体験ができています。
- ◆自然の中で色々な遊びや知らないお友達と協力して活動することの大切さを得られた。
- ◆生活の中で切り替えができるようになった。今、何をすべきか、行動に移せるようになった。
- ◆自分の事は自分でしようという気持ちや手伝いをしたいと思うようになりました。たくましく感じられます。自立しました。
- ◆今までより自分のやりたくない事でも我慢できるようになった気がする。今までよりわがままが減った気がする。お手伝いをしてくれる。(以前より増えた)
- ◆今まで一人で泊まりに行ったことがありませんでした。しかし参加してみると自分で荷物を用意したり、入らなかったらどうやって入れるか工夫したりする姿が見られた。活動を聞くと普段できないことを体験した楽しさと家族と



離れた不安や寂しさ、色々な気持ちの混じった体験ができたことが良かったと思う。一人でも色々な事ができるようになった成長に気付かされた。

## 2、指導者アンケートより

### ①活動を通して見られた子どもたちの

#### 成長について

- ◆遊ぶ時は思いっきり遊ぶ、片付けなどの時は真面目にするなど、けじめがつけられていた。
- ◆最初からほとんどの子が、森が好きだったが、時間がたつにつれてより積極的に自然へとびこんでいった。
- ◆今までやったことがない活動(料理や森の探検等)に積極的にチャレンジする姿勢が出てきた。
- ◆最初は、グループのまとまりもなく、一人一人が個性をぶつけあっていたことが多かったけれども、班活動をしていくうちにチームワークが生まれ、年上が年下の面倒を見るようになっていく姿が見られた。
- ◆特に3回目の宿泊の時には、身支度(冬場だったので、結構大変)も自分たちでできるようになったことや嫌いな野菜を少しでもいいから食べてみよう挑戦し、食べられたこと。
- ◆最初は、まったく知らないもの同士であったのに、最後には、仲良しの友達になっていた。遊びと生活を通して仲間づくりができていた。
- ◆友達や保護者さん、スタッフに対して思いやり、気遣ってあげる姿が見られた。

### ②自然(森)の中に入った時の

#### 子どもたちの様子について感じたこと

- ◆普段の生活では見ることでできない植物や生き物にとっても興味をもち、「すごいよ!」などと、子どもたち同士やサポーターに伝えていた。
- ◆自然の中には何があるか予想できないため、自然の中にあるものを発見した時などは、とてもいい笑顔をしていた。
- ◆普段違う「森」という空間や動物の足跡に好奇心いっぱい、とても活動的だった。
- ◆自然の中に入って遊んでいる子どもたちがすごく輝いて見える。
- ◆森に入ると子どもたちが、自分で動き出し、いきいきしているように見えた。
- ◆いきいきとした顔で、のびのび遊んでいる。人工物がなくても、あるもので、遊ぶことができる感性のよさを感じた。



## 05.今後の福井県内における幼少期活動のモデル

### ～幼少期の子どもたちが遊べる森をつくることから生まれる連携モデル～

本事業である森の幼少期教室では、森で過ごし、遊ぶことによる効果やよさを感じ、体験することができた。幼少期の子どもたちはもとより、その保護者や指導に携わった大人たちにとっても、森での体験活動には、意義があることがわかった。そして、単発の活動に参加することよりも、継続した森での体験を行うことで、森に生きる動植物の移り変わりを体で理解できるとともに、そこで生まれる仲間との交流やコミュニケーション能力を豊かにし、自己成長へとつなげられるということも、考えられた。

森で遊び、すごすことのよさや大切さの理解にあわせて、そこにともなうフィールドづくり＝森づくりを行うことも重要になってくる。森づくりは、遊び場を作るだけではなく、そこから生まれてくる効果も大きい。まず、森との関わりを密なものにさせ、そこに暮らす生き物たちのことを理解し、身近な存在としてとらえることができるようになる。自分たちの手で森を育てていくことで、森への愛着心や自然を大事にしようとする気持ちも芽生えるだろう。そして、四季を通じて関わることで、生命のはかなさや神秘さも感じとることができるかもしれない。

森や自然に対する想いが育まれ、豊かな感性や創造力を身につけていくとともに、達成感や充実感を味わい、そこに仲間が存在することで、協調性や社会性も育ち、そこで展開される様々な感動をより一層味わうこともできるだろう。

よってここからは、幼少期の子どもたちが遊び・すごすことのできる森を作ることで、子どもたちの成長ならびに、様々な者たちの連携（つながり）を図っていくようなモデルを提案していく。

### 1、項目ごとに考える森を媒体にした連携

#### 地域

##### ◆その土地を学ぶ

連携者) 「地域住人」と「地域外の人」。「地域」と「地域外の者」。

目的) 昔から伝わる地域の特色を学ぶ・受け継ぐ

方法) 活動拠点となる場所について、情報収集をすると共に、地域の人から話を聞いたり、体験から学んだりする。歴史や文化、その土地に昔からある伝統などを生かしていく。また、昔からそこで行っていることを生かした森づくりを展開していく。民話や森に伝わる話や森の神様などを使った活動の展開なども行う。

##### ◆地域の林業組合や専門家、猟師などとの連携

連携者) 「地域で森関係に携わる人」と「それ以外の人」。

目的) ①地域の人材の活用。

②森やそこにともなう事柄を学ぶ。

方法) 地域の植生や生息動物にあった森作り。

##### ◆一緒に森づくり

連携者) 「地域住人」と「地域外に住むもの」。

目的) ①自分のすむ地域を自分たちの手でよくする。

②地域への愛着心を養う。

③活動への理解。

方法) 地域住人と共に、森作りを行う。

##### ◆地域の目玉とさせる

連携者) 「地域」と「地域外」。

- 目的) ①地域外の人々に周知してもらい、訪れてもらう。  
 ②地域外の人々が訪れることによる地域の活性化。  
 ③地域への愛着心を養う。
- 方法) その地域ならではの森づくりを展開する。地域の地形・植生・特色を生かし、森のテーマを考えて、それに沿って森づくりや森での活動を展開する。

#### ◆森と森のかけはし

連携者) 「森」と「森」。「Aの森に携わる人」と「Bの森に携わる人」。

目的) 離れた森と森をつなぐ。福井県内における総合的な森づくりの向上をねらう。

方法) 森マップづくり

→安全に楽しく遊べる森をリストアップしたマップを作り、マップ(ガイド)をもとに、多くの人に訪れてもらう。

→離れた「森」と「森」を結ぶ。

#### ◆活動のボランティアとして関わる

連携者) 「地域住人」と「地域の子ども」・「地域外の子ども」。

目的) ①地域と子どもたち・親子との交流

②地域の人の居場所づくり

方法) 森での活動に、地域住人の方々にボランティアや遊びの講師として関わる。

## 小学校・幼稚園・保育園

#### ◆団体および地域が作った森を学校・園単位で活用する

連携者) 「小学校・幼稚園・保育園」と「自然体験活動団体」と「地域」。

目的) 森や山などが近くにない学校や園における森での活動体験

方法) 団体や個人などで管理し、整備した森に学校や園ごとで訪れ、そこで活動をする。

#### ◆小学校・幼稚園・保育園近くの森や雑木林を共に整備する

連携者) 「小学校・幼稚園・保育園」と「森づくりの専門家」と「地域住人」と「ボランティア」。

目的) ①子どもたちにとっても、身近な場所で、活動を行える。

②放課後や休日などにもすごすことができる居場所となる。

③学校や園と地域住人との交流や関わりが生まれる。

方法) 学校や園近くに活動を展開できる場所を探し、そこで学校関係者だけでなく、専門家や団体、地域住人や学生ボランティアなどをまきこみ、森を作っていく。作った森は、だれでも気軽に行けることがのぞましい。

## 指導者

#### ◆森づくりと研修会との連携

連携者) 「幼少期活動の指導者」と「森づくりの専門家」と「森のある地域住人」。

「指導者」と「指導者」

目的) ①指導者が、フィールドやそこに生きる動植物に対する理解を深める。

②よりよいフィールドを、指導する者の手で作ることで、活動にも望ましいフィールドを作ることができ、活動効果を更にもたらす。

③地域の人々および地域との交流

④豊かな感性をもった指導者作り

方法) 指導者研修会のプログラムの中に、「森づくり」を取り入れる。講師には、できるだけ森のある地域の林業士や環境関係者に依頼する。地域との関わりを活動の中にもりこむことで、森への理解をより深められるようにする。

## 保護者

### ◆森づくりへの関わり

連携者) 「保護者」と「森作り関係者」と「地域」。「保護者」と「保護者」。

- 目的) ①森づくりに関わることで、森への理解を深める。  
 ②保護者の学びの場、体験の場にする。  
 ③子どもたちの遊び場を親自らが作る。  
 ④森づくりによって、他の保護者との交流を図る。

### ◆親子で森づくり

連携者) 「親子」と「森作り関係者」と「地域」。「親子」と「親子」。「親」と「子」。

- 目的) ①親子関係の深まり。  
 ②家庭での森および自然への関心を高める。  
 ③家族間の交流が保てる。友達づくりの場。  
 ④休日の過ごし方をかえる。

方法) 親子で活動できるプログラムを実施する。簡単な間伐であったり、植林であったり、一緒にできるものを取り入れる。また、親と子でわかれた活動も展開していく。親子でのんびりできるスペースも作っていく。

## 行政

### ◆行政林の活用

連携者) 「行政」と「地域住人」・「地域の森林関係者」・「小学校・幼稚園・保育園」。

- 目的) ①地域の人々が地域で憩い、体験できる場をつくる。  
 ②地域の交流の場とさせる。  
 ③安心感をともなう森づくりが可能となる。  
 ④地域をアピールすることにつながる。  
 ⑤地域の雇用の確保  
 ⑥管理が行き届くようになる。

方法) 行政が所有している山や林を市民が利用する。

### ◆行政のイベントとの連携

連携者) 「行政」と「一般市民」・「専門家」。

- 目的) ①行政から森づくりを啓蒙することで、より市民に森づくりの楽しさや森での活動のよさを理解してもらう。  
 ②専門家がイベントに関わることで、より自然にとってよい森づくりを展開させる。また、専門家同士のネットワーク作りの場とさせる。

方法) 森づくりや森に関わるイベントを計画し、開催し、多くの人々に森に携わってもらう。

## 2、『1つの地域』に『1つの森』を！

1、の各関係から「森」を媒体にした連携について考えていくと、様々なつながりができることが考えられる。「森づくり」を行うことは、単純に森がよくなるだけでなく、様々な人や団体が協力し、つながっていきけるのではないかとと思われる。

よって、ある一定の地域に一つ『森』が存在し、その『森』を作り、守っていくことを関係者が一丸となって行うことで、豊かな社会が作られていくのではないだろうか。

## 里山で子どもたちが遊ぶよさ

岡保保育園 園長  
齊藤 準子

岡保保育園は福井市の東部に位置し、後ろに東山をかかえ、四季折々に美しい田園に囲まれた豊かな自然環境の中にあり、岡保地区の住民によって作られた民間の保育園です。

今から12年前の1998年に、前園長の下で「自然と関わる遊びが子どもの生きる力を育てる」をモットーに子ども主体の保育を行い、園内からプラスチック製のおもちゃや遊具を排除し、園庭では、自然の素材だけを使って毎日どろんこ遊びを始めました。子ども達は自ら目の前にある自然の素材に親しみ、遊びを見つけて遊んでいます。

粒子の細かい土や粘土質の土など様々な土を子ども自身が混ぜ合わせて遊びます。水を運ぶのもバケツやじょうろがないため、手ですくい、何かないと水を運ぶ物を探し出し、自分達で一つ一つ獲得していけるようになりました。保護者の方も地域の人々も『自然と関わり合う』岡保保育園の保育を温かく見守ってくれ、この様な自然を生かした保育を求めて地区外から通う園児も増えました。

しかし、園児数が増えると、狭い園庭では少しずつ窮屈になり、園庭内の自然ではどうにも限界があり、自然がもっとある東山を利用した保育が出来ないかと考えていた時に、NHK ETV 特集『里山保育が自然を変える』（2007年10月）というドキュメントを見ました。すぐに千葉県木更津市の社会館保育園へ視察見学に行きました。そして、歩いて10分位で着く東山（里山）を生かした保育が出来ないか？と職員みんなで話し合い、行動をおこしたのです。

子ども達が山の中で自由に遊べる場所がほしいと、地域の方をお願いしたところ、2人から提供があり、専門家のアドバイスも受けて、土地利用協定を結びました。初めての里山でどの様に整地し、どう保育を展開したらよいかをみなで話しあいました。200本もの竹をチェーンソーで切り倒し、運び、粉碎し、間引きしました。下葉も刈り、山の中に陽が入る、明るい里山が出来ました。

新しい年度が始まり、数多くの里山保育が展開されました。たけのこが顔を出すと、子ども達は「たけのこあった！」と喜び、「お宝いっぱい」と筒ほりを楽しみます。7月には笹を運び、七夕飾りも行いました。夏も里山の涼しい木陰でいっぱい遊ぶことが出来、「今日里山行った～」と嬉々としてお家の方に楽しかったことを伝えていました。適度な間隔で竹が立ち並び、下の地面も落ち葉で柔らかく、歩いて登ったり坂すべりをしたりと、大いに楽しめました。

里山保育を進めていく中で、竹林の遊びから更に広がりのある【雑木林の里山】も欲しいと思うようになり、新たな土地を探しました。里山保育を好意的に見守ってくださる地域の方より提供していただいた場所は、東山に登る車道に面し、見渡し出来る安全な場所で、中央には自然に出来た沢があり、ケヤキや榎の木もあって、竹林とはまた違った遊びが展開できる場所でした。2009年10月再び保護者・地域の方・職員・森林組合の専門の方にお手伝い頂き、2回目の里山整地を行いました。自然に流れる沢はあたかも子どもたちの為に作られたかのようで、沢にサワガニやヤゴなど生き物がいっぱい生息していました。倒木があり整地の際に処分も考えましたが、子ども達の遊びを見てからにしようとそのままとしました。里山で子どもたちが遊ぶ目の輝きを想像し、わくわくしながら、子どもと共に里山遊びをすることを楽しみに待ちました。

子どもたちは「お山の神様、遊ばせてください」と里山へ入る際に挨拶をします。同時に熊などの撤退を願って大きな声で挨拶するようにしています。自分たちの里山に着くと子どもたちはそれぞれに散らばります。すぐに沢をのぞき込み、石ころをどけると歓声が上がり沢ガニを見つけて大興奮でした。初めは恐々持っていたのが、すぐにコツを掴みやさしく捕まえます。木の棒を見つけて沢の淵に座り込み魚釣りごっこが始まります。そのままにしておいた倒木は案の定、子どもたちの興味をそそり、順番に木にまたがり、お尻ですりすりと倒木の先端まで進み、倒木登りをしました。到着点は高さ170センチメートル程もありますが、保育士の手を支えにジャンプして降りることを個々に挑戦しました。わくわく、ドキドキハラハラしながらも自然物を生かして遊ぼうとする力、友達同士知恵を出し合って遊びを展開し、喜び合う力が育っていることを実感します。

「この里山は、前の里山よりでっかいし、宝もいっぱいあるし、探検も出来る！」という子ども達の感想から【でかでか山】と名づけられたでかでか山に子どもたちと出かけ、自ら自然と関わっていく子どもの力を信じて、余計な手出し、口出しをせずに子ども主体で遊ばせています。山漆など危険な植物の見分け方など山の中の安全管理の知識や今子どもの遊びの広がりをどうするかを考える時、保育者自身が「自然のこと」や「援助方法」を学んでおきたいと思います。今後、自然体験共学センターの方との連携を大いにとらさせて頂き、より豊かな子どもの育成となるよう努力したいと思います。



# もりでのたのしかったできごと、ありがとう

～スタッフから教室に参加したみんなへ～

自然がよくにあったよ。いきいきとしたすがた、すてきだったよ。自然ってすごいよね。楽しいよね。このすばらしさだけいじにしていきたいね。 しばっち☆



やまんばは、  
みんなに会いに  
森に行くよ。

やまんば☆



またみんなで  
いろんなことに、  
挑戦しようね。

えっちゃん☆



どの活動にも積極的に元気いっぱい活動している姿にとっても感動しました！これからも笑顔いっぱい自然の中での活動をたくさんして楽しんでくださいね。

しーちゃん☆

そり遊びや雪灯ろう、恐竜の歯のこおり発見、山の中のゆき道歩き。と～っても楽しかったね。みんなで作ったごはんもとてもおいしかったよ。ミカンの汁でかいた絵もどうなるのかドキドキでしたが、うまいうきあがって嬉しかったね。またどこかであえるとうれしいね。 つじちゃん☆



あなた達は強いです。私たちにできないこともいっぱいできます。自然に目を向けて、感じることで、きっとすばらしく成長していくと思います。身近な自然に目を向けて感じてください。 たこ☆



一緒に楽しい時間を作ってくれてありがとう。森でのびのび遊んでいる姿やいろんなものを発見した時の笑顔はとってもよかったよ。これからも森や自然のことにもっと興味をもってたくさん楽しんでね。 ななちゃん☆



みんなといっぱい遊んで、いっぱい作って、すごく楽しかったよ。だからこれからもいっぱいいろんなことができたらいいなと思います。 よっくん☆

何が一番楽しい活動だったかな？たくさん思い出があるように、成長したところもあると思うので、家や学校・幼稚園などで、いかしていったね。 のぶ☆



1つだけみんなにしてもらいたいことは、いろんなことにチャレンジすること。いろんな友達と遊んだりいろんな所にいたり。今までイヤだなとかできないと思ったことにもチャレンジしてみよう。嫌いな食べ物もおいしかった！なんて発見があるかもね。 やまちゃん☆



平成 21 年度 文部科学省委託事業 青少年体験活動総合プラン

『森ですごく幼少期の子どもたちとの関わりから構築する

福井県内での幼少期自然体験活動推進モデル』 活動報告書(簡易版)

発行 : 平成 22 年 3 月

発行所 : NPO法人自然体験共学センター

〒910-2464 福井県福井市中手町 7-3 福井市上味見生涯教育施設内

TEL : 0776-93-2013

FAX : 0776-93-2012



森と遊んで大きくなろう

